知教労ニュース

発行　知多地方教職員労働組合（知教労）
〒475-0929 半田市仲田町1-18　Tel&Fax 0569-24-5216
HP:http://chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail:chikyoro@oboe.ocn.ne.jp

学力テスト問題第2弾 教委議事録から見えた教育委員の「見識」

市町教委は、「学力」をどうとらえるかの真摯な議論をすべき!!

今月二十二日に実施された「全国学力・学習状況調査」に対して、現場からは「忙しく、授業が足りない中で、どうして一日の授業を削ってやるのか」「マニュアルが複雑で事務量が増加した」などの戸惑いの声が上がっている。

先月号でも報道したが、知教労は各市町の教育委員会に情報公開をかけ、教育委員会でどんな裁定がされたのかを究明した。

その結果、どの市町でも、「まずテストありき」として、「事務局」の提案どおり何事もなく実施を決めていたようなふしがある。

全国学力・学習状況調査（以下学テと呼ぶ）が七十七億という巨額をかけ、昨年度から実施されたのは周知の事実である。その中で、民主的な教育を進める人々から、全国的な一斉テストに教育の国家統制化や偏差値教育への回帰などの批判が沸きおこった。全国唯一「不参加」を決めた犬山市にしてでも、市民を巻き込んで「学力」とは何かという本質的な議論が重ねられた。不参加という結論は、真摯に「学力」を考えて出た結果である。

少なくとも、教育に高い見識を有するはずの教育委員たるもの、そのような論議や現場での実情を勘案しない訳がないだろうと考えていた。しかし、今回の教育委員会の論議の中に、そのような懸念に対し、正面から向き合い、それでもやるだけの価値があるのかという意見は見られなかった。一様に「点数の公表」には他市町の動向を窺うが、それさえ大丈夫ならば「まあ、ええんでないかい」といった雰囲気である。

さらに、ある市町では、「小学校でやったんだから、中学校にまとめて生かしてほしい」「今の子は、先生もそうだが、辛抱強く考える力が足りない」「マスコミが学力テストと呼ぶのがよくない」などと、多忙な現場の状況を見ず、他人事のような意見を述べる委員もいる。

現在犬山市では、不参加に対する反対派からの攻撃により、参加を検討する動きも出てきているという。一年以上に及び喧々諤々の議論の末、二年目も不参加を決めた矢先である。市長を中心とした行政からの圧力は熾烈を極めた。いったい戦後定められた「教育の独立」の理念はどこに行ってしまったのだろう。

政治から独立して、教育に直接責任をもつべき教育委員会という機関が、行政に対してこれほどまでに受身になり、見識と良心を失うとすれば、それは教育にとって自殺行為とならざるを得ない。

（議事録の前文と、論点の要約抜粋は知教労ホームページに掲載されています）

県教委による再任用拒否問題で知教労が申し入れ

知多郡から、今年退職予定者の中で「再任用」を希望した二十九名（県全体）のうち、三名が任用を拒否された問題で、知教労は県教委教職員課に「①任用制度の趣旨から考えて、全員を採用すべき ②健康状態を理由に不採用にするのは（今まで働いてきたことを考え）不当である。③当事者の経歴からの差別は不当である。④採用の手続きが明瞭でないという観点で申し入れを行った。県教委は「思想差別ではない。今回のものは総合的に判断したが、健康も大きなファクターだ」などと回答したが、「趣旨はよく理解できるので過年度退職者ももう一度申し込んでほしい」とも答えた。

北から南から

新年度がスタートして、小規模の我が校も、新しい校長、新任の先生を迎えた。日々新たな刺激を受けながらも、今までどおりのなごやかな職員室に、ほっとしている。しかし、小規模校は一人が受け持つ校務分掌が非常に多く、会議会議で提案続きの年度当初はかなりハード。でも、そんな中での朗報です。

結論から言えば、我が校では、休憩時間中の部活動・陸上練習のすべてが、勤務の割り振り対象として認められた！！　職員会の場で、「こうやってきちんと話し合われ職務として位置づけられたものであるから、勤務の割り振りをしてもらいたい」と発言したことに対する答えである。全職員に向けて、誠実に対応してくれたことが何よりうれしい。そして、部活動指導が勤務であるという考え方が、どの先生にとっても当たり前に通じるんだということがはっきりした。ただし、本校の部活動は、週3日、4時45分までと時間的に短く、だから実現が容易だったという面はある。・・・それでも画期的！

先日の専門部会後のミニ学習会で、M氏から勤務の割り振りが「52週を超えない範囲内で可能」とする県の規則を教わった。少しずつ、活路が開けてきている。南からの発信も、これからのよい材料にしていただけたら幸いです。　（AT）

みんなの目

▼今年のさくらの季節はあっという間に終わった気がします。春休みに入って急に暖かくなったためか、さくらも咲き急いだような……▼かつて、さくらはその散り際の潔さから、戦時中は、兵士の理想像として例えられました。そのためか、あっというまに散ってしまうさくらの季節がなんとなく苦手でした。▼ところが、今年ふと目にしたコラムで、さくらを見る目がかわりました。「死んでしまった兵士はもう二度と帰ってくることはないが、散ってしまったさくらはまた、来年も変わらず美しく咲く。さくらを美しいと思うのは、また来年もこの美しいさくらを見たいと思う、いわば生を愛おしむ心がそうおもわせるのだ」と……。▼さくらが生きるエネルギーに満ち溢れていると思えたとたん、今年八十八歳になる夫の母を七十八年ぶりだという母校の小学校の花見に誘いました。（YS）

愛知県下連帯単組の動向

私たちの仲間は、県内各地で働きやすい職場をめざして様々な活動をしています。今月は知立からこんなニュースが伝わってきました。

三河・知立市で不当人事を撤回させる。

三河では、未だに本人の承諾なしに突然異動を申し渡されることがある。今回の事件は、知立市立の小学校に7年間勤務される方が、本人の希望も何の打診もなく、突然校長から中学校への異動を告げられたことに始まる。

この校長は、高圧的でありセクハラ・パワハラの疑いをもたれる行動があり、今回は「在任年数が長いから」という機械的な対応で行ったようだ。三河教労は、連絡を受けて直ちに対応し、知立市役所へ本人とともに申し入れを行った。その日のうちに知立市教育委員会の課長から電話があり、「他の小学校への異動」ということで決着した。県教委への申し入れも予定していたが、その必要はなくなった。

県下ではまだ希望調査票を本人ではなく、校長が書いているところも多い。知多では、知教労やその先達の活動の成果で、県の人事異動方針にあるように「本人の希望と納得」が原則となっている。人気のない市町もあり、仕方なく異動先を受け入れている方もいるだろうが、本人が納得できなければ、知教労も協力して希望通りの異動になるように協力を惜しまない。

今回異動されたその方は、それまで所属していた組合は「御用組合だから辞めます。」と、三河教労に加盟された。

知ってるってるつもり・Q&A　第3回

Q　私の職場の校長は、職員の時間外労働・休日労働時間を把握しようとしていません。このような校長は許されるのでしょうか？

A　いえ、許されません。その校長は労働安全衛生法違反です。

労働安全衛生法の改正により、脳・心臓疾患の発症の予防をするため、長時間にわたる労働により疲労の蓄積した労働者に対して、事業者（校長・教育委員会）は医師による面接指導を実施することが義務づけられました。常時50人未満の労働者を使用する事業所（学校）も平成20年4月から適用されています。

長時間にわたる労働による労働者の健康障害の防止を図るための対策を樹立する事が義務づけられたのです。

そのために、時間外・休日労働時間の算定を事業者（校長）はしなければなりません。（労働安全衛生規則52条の2の第2項）法律では時間外・休日労働時間の算定は毎月一回以上一定の期日を決めて行わなければなりません。

この結果、時間外労働が100時間以上の労働者、80時間以上の労働者、45時間以上の労働者に対して、それぞれに健康指導の対策がとられるよ うに決められています。

詳しくは、同封した別紙の厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署のパンフレット『長時間労働者への医師による面接指導制度について』の中の「面接指導の実施に係わる流れ」「長時間労働者に対し面接指導等を実施しましょう」をご覧ください。

知多地方のすべての職場で実施する義務が校長に生じているのです。労働者として自分の健康を守るために、時間外労働時間の把握を厳しく要求 していきましょう。

算数の問題と子どもの意識の移り変わり

○ 4年生の筆算の学習の発展問題として、筆算のおもしろい問題を新任当時からずうっとやり通してきた。
この問題の紹介とその問題に対する子どもたちの反応の移り変わりを紹介し、考えたい。

問題
①3けたの数を思い浮かべてください。
②同じ数を繰り返し、つなげて、6けたの数を作ってください。
③その数を7で割ってください。
④その答えを11で割ってください。
⑤その答えを13で割ってください。
⑥答えは元の数になります。

→ 具体的な例です

① 259・・・好きなけたの数を思い浮かべる。
② 259を二つつなげて6けたにする。259259
③ 259259を7で割る。259259÷7＝37037
④ その答え37037を11で割る。37037÷11＝3367
⑤ その答え3367を13で割る。3367÷13
⑥ 答えは……おお！元の数の259だ！

また、最初に作った6けたの数字259259は、11で割っても13で割っても割り切れます。

これだけでは、おもしろくないので、クラスでやってみたい子をあて、好きな3けたの数を言って下さい。と言って、「繰り返して6けたの数を作ってください。」と言って板書します。この列の人・・・と、ちょっと担任がちょっとむずかしい顔をして・・あなたたちは、7で割り切れます。と自信たっぷりに言い切ります。子どもたちから、ええー？　ならないはず？という声が上がります。じゃあやってみようか。となり、計算に取り掛かります。あれ割り切れた。となり、次にすごいという声に変わります。次に、○○さん、あなたは、13で割り切れます。宣言します。自分の作った数が、割れるのか、信じられない。と思いながら、計算を実行します。他の子にも同時に計算をさせます。あれ！？割り切れた。どうして？なぜ？の声がクラスを一杯にします。これは、25年ほどの前の教室風景です。近頃は、あ、そうなんだ。で簡単に終わってしまう事が多い。子どもの質の違いが出て来ているようです。私にすれば、どうして？なぜ？先生4けた数でもそうなるの？という子どもたちの方が、将来を切り開く力を持っているように思えています。どうして、こうなってしまったのでしょうか。（文責 Ｉ）